



令和3年度一般会計決算について

第2次総合計画前期基本計画の最終年度となる令和3年度は、第2次総合計画前期基本計画の必達と第3次行財政改革大綱による健全財政の確保を図りつつ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止と社会経済活動の両立を目指して、総額約23億円の新型コロナウイルス感染症対策「総合対策パッケージ」を取りまとめました。

また、継続的な事業である亀山駅周辺整備事業や図書館整備事業などの事業進捗を図ったほか、地域のにぎわい交流などの場として活用するためJR加太駅舎の改修工事を実施し、待機児童対策として和田保育園保育室の増設事業に着手したことなど、適切な予算執行に努めたところです。

その結果、令和3年度一般会計の決算は、歳入総額は251億6,709万6千円、歳出総額は239億4,737万2千円となり、実質収支は10億9,500万4千円の黒字となりました。

財政指標である経常収支比率は、第3次行財政改革大綱の目標値としている85%を12年ぶりに大きく下回り、前年度より4.9ポイント好転した80.6%となり、また、公債費負担比率についても、前年度より0.3ポイント好転した11.7%と依然として警戒ラインの15%を下回っているほか、実質公債費比率などの健全化判断比率等も、国が定める早期健全化や財政再生を図るべき基準に対し全て基準内となっています。

なお、市税収入は、前年度に比べて約1億5千万円減収となりましたが、地方交付税が約4億3千万円の増額、臨時財政対策債が約3億2千万円の増額となったことなどにより、財政調整基金残高は、前年度と同規模の約23億8千万円となりました。

これらのことから、市税収入は減少したものの、普通交付税や臨時財政対策債などが増額となり一般財源が確保されたことから、各財政指標は前年度に比べて好転傾向にあるため、概ね財政の健全化を確保することができたものと考えています。

一方で、令和4年5月に改訂した長期財政見通しにおいて、令和4年度から令和7年度までの一般財源については、横ばい傾向が続くと見込んでおり、依然として新型コロナウイルス感染症の影響等も危惧される状況であることを踏まえ、亀山市行財政改革大綱の取組項目を着実に実践することにより、今後も持続可能な行財政運営の確立に努めてまいります。